

# 博物館に行こう

## ～市原歴史博物館がオープン～

今回、「大人の社会科教室」のテーマは「博物館」です。みなさんは、これまでに一度や二度、いや何度も訪れたことがあるでしょう。なぜ博物館をテーマにしたか。秋も深まり「芸術の秋」でもありますが、この11月、市原市に国宝級を展示できる「市原歴史博物館」が開館したことから選びました。愛称は「I'Museum」といいます。県内では、多くの自治体が歴史系の博物館や郷土資料館、考古館を整えています。自治体規模が県内6番目、市民27万人の市原市としては遅きに逸した感はありますが、待ちに待った「博物館」のお目見えです。歴史好きのわたしとしてはうれしいかぎりです。市原歴史博物館のオープンに向けて、これまでに市民の立場から微力ながら協力をしてきました。開講のために少し勉強をしました。いろいろなことが分かりました。「博物館」というイメージに思い違いをしていたこと。わたしの認識不足でした。なんと美術館や動物園、水族館、植物館、科学館、文学館、天文館なども仲間だったのです。一緒に博物館の世界を探ってみましょう。

### きょうお話しする内容

#### 1部 博物館を楽しむために

- 博物館とは
- 博物館の始まり
- 博物館の種類
- 常設展と企画展（特別展）
- 屋内展示・屋外展示
- 近隣の博物館を訪ねる（茂原市、陸沢町、袖ヶ浦市）
- 博物館を旅する・お勧めコース

#### 2部 市原歴史博物館に行こう

- I'Museumの見どころ
- 市内まるごとミュージアムという考え方
- バス研修を前に豆知識

【博物館とは】「博物館」には定義があります。博物館の世界的な組織の国際博物館会議（ICOM）では「社会とその発展に貢献するため有形、無形の人類の遺産とその環境を教育研究、たのしみを目的として収集、保存、調査研究、普及、展示する公衆に開かれた非営利の常設機関」と定義しています。

日本では1951（昭和26）年に施行された博物館法があります。同法によると、第2条で「博物館とは歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し保管（育成を含む、以下同じ）し、展示して教育的配慮の下に、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」としています。資料には、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学などが含まれ、博物館法には美術館、動物園、水族館、植物園、科学館などの名称は出ていません。また、博物館法では、「博物館」は社会教育機関・施設と位置付けています。設置要件も記されています。設置に際して①都道府県の教育委員会に届け出て、税制や補助金など優遇措置が得られる「登録博物館」②これに準ずる「博物館相当施設」③そのほかに、博物館法対象外の「博物館類似施設」の3つに分類されます。また、収集、展示する対象による分けがあります。①ICOMが定義している「有形、無形の人類の遺産」を主な対象とする①文化系博物館②「その環境」を対象とする自然系博物館③文化系、自然系を対象とする総合博物館の3種類です。

文化系博物館は、歴史博物館、民俗博物館、民族博物館、文学館、美術館、民芸館などがあります。自然系は、自然史（誌）博物館、自然科学博物館、科学館など。主に生きている生物を展示の対象にしている動物園、水族館、植物園は自然系に入ります。鴨川シーワールドや自動車で観覧するサファリパークも自然系博物館です。千葉県の中核的博物館を担う県立中央博物館は総合博物館です。また、博物館法では博物館に館長、学芸員を置くことが決められています。登録博物館は年間150日以上開館することが義務です。

【博物館の現況】現在、日本の博物館数は文部科学省実施（2018年）の「社会教育調査」によると5738館。登録博物館が914館（15.9%）、博物館相当施設が372館（6.5%）、博物館類似施設が4452館（77.6%）という調査報告があります。圧倒的に博物館法対象外の博物館類似施設が占めていることが分かります。この現況に、国では文化審議会博物館部会で博物館法改正に向けた審議が行われているという（「博物館の世界」栗原祐司著）。

同調査では、「登録博物館」の数は①長野県75館②東京都57館③北海道44館④神奈川県39館⑤千葉県35館⑥富山県33館の順となっています。人口10万人当たりで見ると、①長野県（16.72%）②島根県（12.35%）③山梨県（12.00%）④石川県（11.72%）⑤福井県（11.50%）の順です。首都圏をみると、神奈川県44位、千葉県45位、埼玉県46位です。最下位の47番目は大阪府（1.23%）でした。首都圏や近畿圏など都市部は館数割合が低いことが分かります。「登録博物館」、「博物館相当施設」、「博物館類似施設」を併せた博物館数で最多は長野県の428館でした（登録博物館75館、相当施設8館、類似施設345館）。ちなみに千葉県の場合は115館（登録35館、相当8館、類似72館）

で総合館数は全国19位にランクされています。

【博物館の歴史】紀元前3世紀のギリシャ、ローマの時代からモノを集め、展示する施設があったという。一般には、現代的博物館は1683年（日本では江戸天和年間・5代将軍徳川綱吉の時代）にイギリス・オックスフォード大学に設立されたアシュモール博物館、1759年（宝暦年間・9代家重の時代）の設立の大英博物館、1793年（寛政年間・11代家斉の時代）のフランス国立自然史博物館などが開設されました。博物館の開設は、17～18世紀のヨーロッパに端を発しています。

日本の場合、江戸時代に本草会、物産会などの展示会はありました。でも常設でだれも見学できる施設はありませんでした。幕末に、ヨーロッパに派遣された使節団、留学生が「博物館」に触れ、明治時代に移入されました。1871年（明治4）に文部省に博物館局ができ、東京の湯島聖堂大成殿を博物館として翌年に開館したのが始まりです。

東京国立博物館は、この年を開設年としています。湯島の博物館は、その後に現在のJR有楽町駅地区の大名屋敷跡地に移り、1982年（明治15）に、上野公園に移転してきました。今の東京国立博物館は人文系ですが、当時は自然史の資料を含む四つの展示館、付属動物園をもった総合博物館でした。その動物園が、いまパンダなどが飼育されている東京都恩賜上野動物園です。上野公園（森）には、東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館、上野の森美術館、東京都美術館、東京藝術大学美術館、東京都恩賜上野動物園、台東区立下町資料館の8館があります。上野公園は、文化の森、博物館の聖地として国民に親しまれています。葛西水族館（江戸川区）は、もとは上野の森にありました。

【常設展と企画展（特別展）】「展示」は「保存」とともに、博物館の活動で大きな使命を担っています。博物館展示は、学芸員の腕の見せ所。「学芸員の調査研究の発表の場」でもあります。博物館の展示種類には、特定のテーマで収蔵品を中心に、長期間にわたり展示する「常設展」があります。いつ訪れてもみることができ、楽しめます。「基本展示」と呼ぶ博物館が増えているという。美術館の所蔵品を中心にした「コレクション展示」は常設展示の一種です。常設展の展示内容を観覧（鑑賞）すると、その博物館の地域特性を知ることができます。一般的に歴史系博物館では、生活民具や年中行事を追った資料を常設で展示しているケースが多いように思います。市原市近隣の博物館の常設展も興味深い展示内容になっています。

茂原市立美術館・郷土資料館は、1994年に県内で初めて美術館と郷土資料館が併設された施設としてオープンしました。常設展の目玉は人が客車を押して運行された人車鉄道の「客車」と、弥生時代末期～古墳時代初期の「国府関遺跡」から発掘出土した木製品群（県指定文化財）があります。木製品群は県内随一で、市原市の「四反田遺跡」（市立五所小地下）からも、それに匹敵するような木製品群が出土しています。「人車」は、明治から昭和初期にかけて、茂原―長南間を運行しました。美術館は、館所蔵の郷土にゆかりある作家の作品を展示しています。

袖ヶ浦市郷土博物館は、1982年に袖ヶ浦公園の一角に開設されました。民俗室では、「人の一生」と「村の一年」をテーマに昔の写真や再現品が展示されています。袖ヶ浦市内の年中行事や七五三、節句、自宅での結婚式など人生、くらしの折り目ごとに、どのような食事が用意されてきたのか「膳料理」の食事内容、引き出物などを再現しています。

「村のお医者さん」のコーナーは、旧小櫃村・駒医院の診療室を再現しています。かつてのお医者さんの診療光景が伝わってきます。屋外展示として、明治時代・20年代後半期に君津市で考案された井戸掘り工法の「上総掘り」のアシバ（足場）や弥生時代と平安時代の「堅穴住居」、江戸時代末期に知行主の御地方役（代官）をつとめた豪農の住宅「旧進藤家住宅」（市指定文化財）が園内に移築復元されています。

睦沢町立歴史民俗資料館は、町の文化財や伝統文化の継承と歴史学習、生涯学習の拠点として活発な博物館活動を行っています。常設展示では、「庶民のくらし」をテーマに生産の道具、暮らしの調度、復元民家などを展示。なかでも信仰の証しとして、地域に根付く「出羽三山信仰」の三山碑が目をはきまします。市原市内も、「出羽三山信仰」は活発ですが、東上総地方まで広く伝播していることが分かります。

企画展（特別展）では、期間を限って、さまざまなテーマやストーリーを持って展示品が紹介されます。期間が限られているため、「生き物」の展示「実演」を組み入れるなどの常設展では難しい手法が使えるという。テーマに沿って開かれることから、他の博物館、寺社から大事な品を借用、図録の作成、ジオラマの造作など手間ひまがかかっているため、観覧（鑑賞）は有料の場合が多いようです。

今夏、千葉県立中央博物館で開かれた企画展「鯨」は評判を呼びました。三方を海で囲まれた千葉県は、太平洋沖合で暖流の黒潮と寒流の親潮がぶつかり合う海があります。日本でも有数のクジラの生息地。生息種は35類と全国トップということです。人々もクジラとかわり、食文化が根付いています。同展では、クジラの進化や多様性、知られざる生態、「千葉の鯨と人間のかかわり」などが紹介されました。クジラは漢字で書くと「鯨」。つくりの“京”は大きな数字の単位に使われる字。クジラは「大きいさかな」ということです。

でも、クジラは哺乳類で人間と同じですよ。クジラについては思い出があります。新聞記者として南房総を担当していたころ。毎年7月に、南房総市和田町に出向きクジラの水揚げから解体作業まで取材しました。和田には、国内で数少ない捕鯨基地があります。解体は作業員が大なぎなたのような道具を使って手際よく処理します。ブロック肉とされた一部は、町民にも販売されます。解体場には、バケツを手にした市民が高価なクジラ肉を購入するために列を作ります。町内のあちらこちらに「くじらのタレ」と書かれた、のぼりや看板が立ちました。「タレってなんだ？」と、最初は分かりませんでした。味付け乾燥したクジラ肉と知りました。今となっては懐かしい一コマです。

袖ヶ浦市郷土博物館では、開館40周年を記念した「富士山―畏れ・敬い・憧れ」と銘打った企画展が開かれています（12月18日まで）。日本一の高さを誇る富士山（3776m）。その雄姿は、身近な存在です。同展では「富士山の謎に挑む」、「畏れる一神なる山へ

の祈り」、「敬うー富士を目指す人びと」、「憧れるー富士への思い」の4つのコーナーを設け、調査研究の成果を展示しています。開催にあたっては、同館学芸員と博物館ボランティアである市民学芸員が協働で「それぞれが思う富士山」を追求したという。「敬うー富士を目指す人びと」では、「富士講」、「富士塚」を取り上げ、富士講での村民が記した道中記が展示されています。当時は木更津から船で江戸まで出て、そこから富士山（山梨・富士吉田口）を目指したことが書かれています。約2週間の“旅（道中）”だったようです。行者が来た行衣、杖なども目を引きます。富士塚は、各地に富士山登拝できない村人などのために築られました。市原市内でも、「富士山信仰」、「富士講」は盛んです。神社境内などに富士塚が建てられ、浅間神社が勧請されています。内房沿いの富津市以南（安房地域）は、山（山容）そのものが“富士塚”の役割をはたし、富士塚は極端に少なくなるという。

館内には、市民学芸員労作の「ミニ富士塚」が置かれています。わたしが住む地区は「富士講」の組織はありませんが、「出羽三山講」は脈々と受け継がれています。数年おきに羽黒山、月山、湯殿山に登拝しています。袖ヶ浦市周辺の「富士講」は、市原市青柳を拠点とする「一山講」、同市五井を中心に広まった「山包講」、木更津市貝淵に元講がある「山水講」などがあるという。

睦沢町立歴史民俗資料館で、特別展「源平争乱を生きた上総広常の時代と伝説」が開催されています（令和5年1月8日まで）。平氏打倒に向けて源頼朝に加勢し、鎌倉幕府樹立に貢献した。しかし、その後に頼朝に「謀反の疑いあり」として誅殺された不遇の坂東武者です。東上総を拠点にしていたため、長生、夷隅地域に上総広常にまつわる伝承が多く残っています。広常の位牌や坐像などが展示され、興味深い特別展になっています

#### 【博物館を旅する・お勧めコース】

まずお勧めしたいのが南房総の館山市。ドライブや旅行気分を味わうには、最適のコースでしょう。まず目指すのは館山湾（鏡ヶ浦）際にある、みなとオアシス「渚の駅・たてやま」（渚の博物館）。かつては県立安房博物館でしたが、現在は移管され「館山市立博物館分館」になっています。「房総の海と生活」をテーマに博物館活動を行っています。「万祝」、「漁船」など海に関する資料約2144点（国指定文化財）を収蔵しています。

特に目を引くのが、タレントで魚類の生態に詳しい「さかクン」がプロデュースしたギャラリー。「さかなクン」が描いた魚たちのイラストが訪れた人たちを「魚の世界」に誘います。カラフルなギャラリーは、まるで海中にいるような気分になります。「さかなクン」は、館山市の「館山ふるさと大使」を務めています。南房総の住民で、有名になる前から「渚の駅の水族館」に通い、魚類の研究をしていました。

渚の博物館には、ミニ水族館が併設されています。子どもたちが水槽に顔を近づけ、熱心に魚の動きを見入っていました。次に訪れたいのが「館山城」。実は城は「里見八犬伝」専門の館山市博物館の分館です。今年で開館40周年を迎えました。館山城の麓に本館となる館山市立博物館があります。戦国大名の里見氏の資料を多く収蔵しています。サクラやツツジの花が咲く季節。館山城・天守からの眺望は最高です。また、館山市は、戦時中は軍事都

市でした。今でも、市内に軍施設の名残を見ることができます。地下要塞の「赤山地下壕」が代表的です。現在の「海上自衛隊基地」は海軍の基地でした。また、館山は戦後に米軍が初上陸した街だったのです。数日でしたが米軍の統治下におかれました。博物館観覧と併せて、館山市周辺の観光名所巡りをするをお勧めします。

城下町・大多喜町を紹介します。目を引くのが「大多喜城」。博物館は、本丸跡地（県指定文化財）に建っています。以前は総南博物館と呼ばれていましたが、今は県立中央博物館の大多喜城分館になっています（現在は休館中）。戦国時代の上総武田氏でした。時代を経て徳川四天王のひとり・本多忠勝が入城した時に大幅に改築しました。大多喜の地名は、忠勝が「小田喜」から「大多喜」に改めたという。館内は「房総の城と城下町」をテーマに展示され、県内の城跡、城下町の様子を知ることができます。本丸下に広がる二の丸跡には、県立の大多喜高校が建っています。城下町めぐりも楽しい。城下町の面影を残す街中には、大多喜藩の御用商人だった居宅の「渡辺家住宅」（国重要文化財）。勢幸酒店店舗兼主屋、大倉弥兵衛商店店舗兼主屋、塩田家住宅主屋（いずれも国登録文化財）、江戸時代創業の造り酒屋、旅籠などが軒を連ねています。最後に、いすみ鉄道・大多喜駅前の「天然ガス資料館」に立ち寄るをお勧めします。こじんまりしていますが、館内には天然ガスに関する資料が展示されています。天然ガスは、日本では大多喜町で初めて採掘されました。現在、天然ガスは世界的に注目が集まっています（ロシアのウクライナ侵攻）。千葉県は長生・夷隅地域を中心に、天然ガスを多く産出しています。市原市内でも、天然ガスが採掘されています。

天然ガスは、明治24年（1891）に大多喜のしょうゆ屋さんが井戸掘り中に、ひよんなことから発見しました。井戸を掘っても、出るのは「黒い水」ばかり。諦め、怒り気味の主人が吸っていたタバコの火を「黒い水」の中に投げ入れた。ところが黒い水から炎が上がった。これが天然ガスの発見譚です。いすみ鉄道の日フリーバスで鉄道の旅を楽しむのも楽しい。小湊鉄道といすみ鉄道を乗り継ぎ、房総半島縦断に挑戦するのもよい。

ふるさと市原を巡る。最後は、地元の市原市を紹介します。開館した「市原市歴史博物館」は、フィールドミュージアムが基本理念。まずは野外に出ましょう。向かったのは、「チバニアン」（千葉の時代）と名付けられた田淵地区の磁場逆転地層。新聞やテレビなどで大々的に報じられたこともあり、「チバニアン」の現場には連日多くの方が訪れています。一躍市原市を代表する“観光名所”となりました。開館した「市原歴史博物館」の提唱するフィールドミュージアム（屋根のない博物館）にぴったりです。2020年（令和2）に国際地質科学連合（IUGS）の理事会で田淵の地磁気逆転地層「千葉セクション」を地質年代に示す更新世前期と中期の「国際境界模式地」とすることが承認された。地層は約77万年前で、①地上で観察可能②「白尾火山灰層」によって視覚的に見やすく、年代が特定されている③当時の環境変動を復元できる微化石、花粉化石などが良好に保存されている④地球上で稀有な地層と、重要性が世界的に認められた。地球46億年の歴史に日本の地名が初めて刻まれる快挙だという。今後は世界各地の研究書、教科書に「チバニアン」が載ることになります（市原市発行・チバニアンガイド参考）。現場には国際地質科学連合認定のゴールドenspバ

イクが打ち込まれ、存在感をアピールしています。現在はコンテナ様式のチバニアンガイド  
ンス(案内所)が2026年に新築されることになった。世界的建築家の隈研吾さんが設計  
し、木材を多用した建物になるという。

チバニアンを後に、高滝湖畔の「市原湖畔美術館」に向かう。1995年に「市原市水と  
彫刻の丘」として開かれ、2013年にリニューアルオープン。現在は「市原湖畔美術館」  
として親しまれています。現代アートを中心にユニークな展覧会を開催。現在は特別展“試  
展—白洲模写 ARTCAMP「アートキャンプ白洲」—とは何だったのか” (2023年1月  
15日まで)が開かれています。常設展では、市原市ゆかりの版画家・深沢幸雄氏の作品を  
中心に、同市収蔵の作品が年4回入れ替え展示されているという。屋外展示では、地域で使  
われていた揚水機「藤原式揚水機」オブジェ(展望塔)、湖上に展開する「湖の祭り」、「や  
ませみ」、「かげろう」などの作品群が訪れた人たちの目を楽しませてくれます。

高滝ダムの放流口に建つ「高滝ダム記念館」。高滝ダムが完成するまでの様子、川回しな  
ど養老川を改修する地元の苦労などがパネルで紹介されています。地域の民具も展示され、  
高滝湖周辺の観光にお勧めします。

## 2部 市原歴史博物館に行こう

市原市民が待望していた歴史系博物館が開館しました。今までに遺跡から発掘された  
品々を保管し、時に展示をしていた「埋蔵文化財調査センター」はありました。でも、いつ  
でも見られる「常設」の施設はありませんでした。市原歴史博物館が開館したことで、「市  
原の至宝」といわれる“国宝級”の遺物が間近に見ることができるようになります。

市原市には、「王賜銘鉄剣」(古墳時代中期中葉・稲荷台1号墳)やイノシシ形土製品(縄  
文時代後期・能満上小貝貝塚)、灰釉花文浄瓶(かいゆうかもんじょうへい)＝平安時代中  
期・荒久遺跡＝、人面付き土器(弥生時代中期・三嶋台遺跡)人物埴輪(古墳時代後期・山  
倉古墳1号墳)など貴重な歴史遺産があります。

市原歴史博物館は、こうした歴史遺産を広く伝えることを目的に市民協働で博物館活動  
を進めていく方針です。「歴史をつなぐ、人をつなぐ」が基本理念で、地域の活力を高め、  
地域活性化を図るのが狙いです。市原市内全域をフィールドミュージアム(屋根のない博物  
館)ととらえ、市原歴史館が中心拠点になります。

市内「まるごとミュージアム」の考えのもと、市内各所で案内標柱を立てる“標柱大作戦”  
が進んでいます。今までに「八幡」「姉崎」「五井」「市原」「国分寺台」「島野」「千種」「鶴舞」  
「高滝」(令和4年10月20日現在)の9地区に設置されています。計画では、20地区  
に各7本、140か所に標柱が設置されます。

わたしが住んでいる市原地区では、すでに標柱が立っています。万葉集に登場する「阿須  
波神社」、八幡の飯香岡八幡宮の元宮といわれる「市原八幡神社」、周辺地域から古代瓦や古

代の遺構が検出され、上総国府との関連性が注目されている「光善寺」などが紹介されています。ぜひ、訪れてみてください。お待ちしております。

フィールドミュージアム（屋根のない博物館）の中心拠点・市原歴史博物館は、館内が「旧石器・縄文」「古代・中世」「弥生・古墳」「近世」「近現代」「民俗」の6つのテーマで、日本の通史、市原市の歴史が分かるようになっています。見るだけでなく、触ったり、匂いもかぐこともできます。詳しい内容は、すでに市原市の「広報いちほら（11月号）」で紹介されていることもあり割愛します。

#### バス研修を前に

今回の「大人の社会科教室」（12月10日）は、千葉県立中央博物館と市原歴史博物館を巡るバス研修です。千葉県立中央博物館では、開催中の企画展「おはまおりー海へむかう神々の祭り」を見学します。三方を海で囲まれた千葉県や東日本の太平洋岸で広く行われている“おはまおり”。神々（みこし）は、なぜ海に向かうのか。海とともに生きてきた人たちの暮らし・祭礼文化から、房総のおはまおりの謎と魅力に迫った展示がされています。展示では、飯香岡八幡宮（八幡）のスペースもあります。

研修を前に、「まつり」についてふれてみたいと思います。わたしたちの、日常の生活は気（ケ）の連続です。ケが続けば、気持ちも弱まります。気が枯れます。これが「ケガレ」ということです。決して「穢れる」ではありません。このために、人は元気になるために「ハレの日」を設けました。正月、春祭り、夏祭り、秋祭り…。そのハレの日に向けて、「がんばろう」と気をふるいたたせる。身の健康に気を付け、エネルギーを貯め、「ハレの日」待ちます。これが祭りの語源といわれる「マチ」です。

まつりには構成する3つの要素があります。一つ目は「物忌み」。身の健康に気を付けるということ。身内に不幸があれば「祭り」には参加できません。二つ目は「依り代」。最も重要とされています。神様が寄り付くところ。祭礼の際に、神社鳥居近く立てられるのぼり神社の神木、自宅の神棚に供える榎。山（山容）や磐座（いわくら）など。要は「神様」が寄り付く（降臨）場所、目印が必要ということです。三つ目は「共食い」。人間と神様が、共に同じものを食べるということ。祭礼の最期に「直会」（なおらい）という儀式があります。神前にあげられた料理を食し、祭りの締めとする。非日常から、また明日から日常生活に戻る心準備というところでしょうか。共食い（共食）には「神様。けして悪い食べ物はあげていませんよ」という意味合いもあります。

各地で「祭り」は行われています。「物忌み」「依り代」「共食い」という3要素はどの祭りにもあります。こうした観点で「祭り」を見ると、祭りの醍醐味や楽しさがより一層伝わってきます。（本文の下線は筆者）

#### おわり

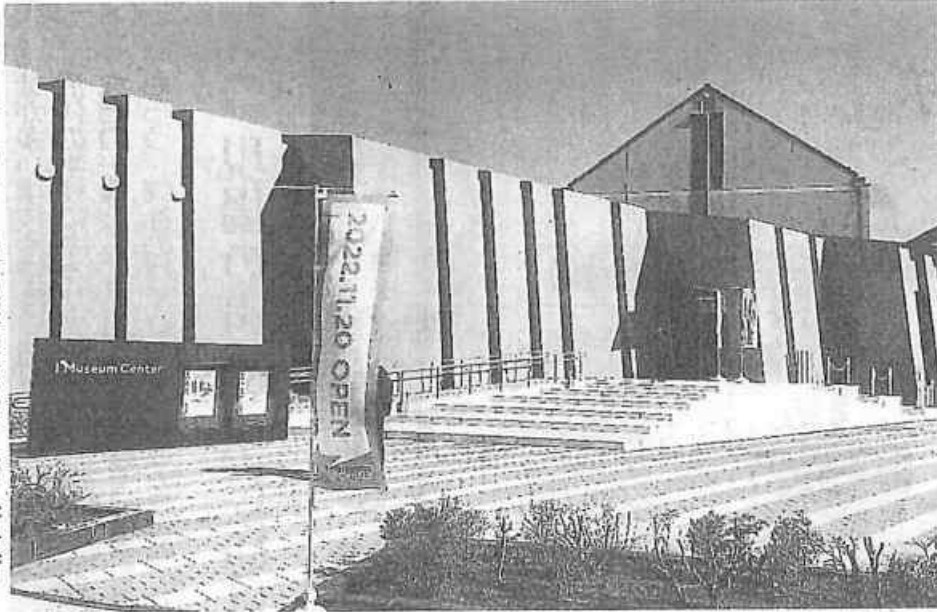
参考文献 「ちばの博物館」「新ちばの博物館」（千葉県博物館協会）「博物館の世界」（栗原祐司・誠文堂新光社）、「47都道府県博物館百科」（丸善出版）、「知識ゼロからの博物館入門」（竹内誠・幻冬社）



# 市原の「至宝」集結

## 歴史博物館20日オープン

市原市が整備を進めていた「市原歴史博物館」が20日にオープンするのを前に、報道関係者に16日公開された。館内には「至宝」ともいえる市内の歴史遺産が集結。旧石器時代から近現代まで3万5千年にわたる市原の歴史を学ぶことができる。併設の「歴史体験館」も同時に開館する。



20日にオープンする「市原歴史博物館」16日、市原市

## 旧石器～近現代 1200点

博物館(平屋建て12

34平方メートル)は、市埋蔵文化財調査センターを増築し設置され、外観は「いちほらの大地」をイメージ。「歴史をつなぐ、人をつなぐ」を基本理念としており、市民や学校と連携しながら、歴史遺産の価値と魅力を未来に継承していくという。

展示物は出土品や市民から寄贈された史料、古文書など1200点に上る。5世紀の古墳から発見された国産最古の有銘鉄剣「王賜」銘鉄剣(お

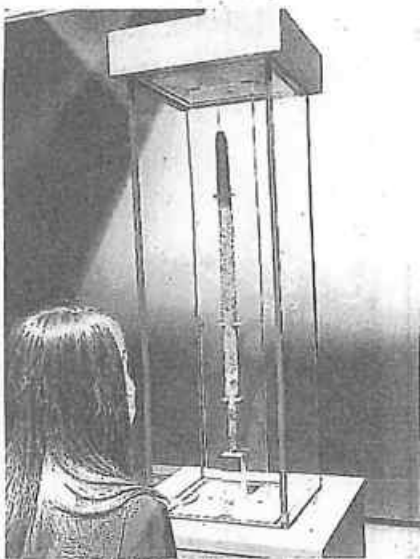
発掘調査の疑似体験コーナー(手前)や、堅穴住居がある「歴史体験館」



発掘調査を疑似体験できるコーナーや、勾玉(まがたま)作りなどを楽しめる「ものづくり広場」を設置。古代の堅穴住居や昭和初期の納屋風建物も再現され、昔の暮らしぶりや遊びも体験できる。

鷹野光行博物館長(73)は「市原に残された遺産を通じて、日本の歴史そのものを学ぶことができるのが特長。身近なものとして歴史を感じてもらえる場となれば」と来館を呼びかけた。

20日は開館記念ステージイベントが開かれ、県指定文化財「鶴峯八幡の神楽」や「大塚ばやし」などが午後1時半から披露される。



博物館の目玉展示物「王賜」銘鉄剣

博物館は同市能満1489。開館時間は午前9時～午後5時(月曜日休館)。観覧料(体験館の料金含む)は一般300円、高校生200円(中学生以下無料)。問い合わせは同博物館☎0436(41)9344。